

事業所名： グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500056		
法人名	株式会社 グランツ		
事業所名	グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階		
所在地	〒025-0055 岩手県花巻市南万丁目1163番地3		
自己評価作成日	令和7年11月20日	評価結果市町村受理日	令和8年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

イベントに力を入れており、月に一度手作りランチ会や、行事を行っている。また、コロナ等の感染対策として地域との関わり方が変化していく中で、徐々に元の活気ある地域交流を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街の一角に位置し、周囲には小中学校や保育園、学童保育、飲食店、コンビニエンスストアなどがあり、生活環境に恵まれ、ハザードマップ上でも災害リスクの低い対象外の区域に分類されている。運営に当たっては、法人の経営理念を職員会議や毎日の朝礼などを通じて職員間で共有し、家庭的な雰囲気大切に、利用者の思いを聴き取り、利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。また、職員間での情報共有を密に行い、ミーティングや記録を活用し気付きや課題を共有することで、利用者の状態変化に迅速に対応できる体制を整えている。さらに、市職員や地域包括支援センター、民生委員、医療機関等との連携を重視し、地域全体を支える仕組みづくりにも注力している。感染症対策や避難訓練、リスク管理などの安全管理も徹底されており、利用者が安心して過ごせる環境が整っているほか、地域との交流にも取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「願いを叶える」という法人理念に沿って職員育成を行っている。出勤時ご利用者様やスタッフに一人ひとり挨拶を行いコミュニケーションを図っている。変化を気付いた際は毎日の申し送りや朝礼で情報共有を行い「ご利用者様主体のケア」を行うように互いに声を掛け合っている。	法人の理念「願いをかなえる」を基本に職員の育成を進め、毎日の朝礼等を通じて職員間で共有し、申し送りノートやタブレットにより、利用者の生活状況や要望等を把握し、利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との関わりが少なくなっているが地域一斉清掃や資源回収に協力している。季節行事は交流が難しい為、地域の方から知恵をお借りし道具を借りる等関わりを工夫し施設内で季節行事を行っている。また、地域の傾聴ボランティアを利用している。	自治会への加入はしていないが、回覧板で回付された一斉清掃等に参加している。花巻まつりの際には子ども神輿が訪れ、地域の子どもたちと交流している。また、地域の方から杵や臼を借りて鏡餅づくりを行っている。地域で行う南万丁目交流会に参加し、地域住民の文化作品を見学しているほか、月1回の傾聴ボランティア来所や、近隣学童保育とのハロウィン交流を通じ、地域に根ざした関係づくりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設見学時や申込み、相談があった際には、困っているご本人や家族の気持ちに寄り添い認知症の基本的な知識やケア、環境の大切さなどを事業所の方針と交えて説明している。家族会や運営推進会議の場においても同様に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	併設の小規模多機能が型居宅介護事業所と合同で隔月ごとに開催を行っている。コロナ禍の為書面開催の場合は電話等で意見を伺っている。季節の行事や日々の活動報告、避難訓練、事故報告等を行い地域の代表者から意見や地域行事の情報交換を行っている。	対面で2か月に1回の会議には、市職員、民生委員、地域包括支援センター、利用者、事業所職員が参加している。会議では入居状況やヒヤリハット事例の報告、意見交換を行い、支援の質向上に努めている。委員から提案のあった家族へのアンケート調査を実施した。また、会議の内容を職員会議で報告することで、職員間で情報を共有し、事業所全体の継続的な学びにつなげている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加していただき意見交換を行っている。運営上の疑問点は会議や電話等を活用しその都度相談に乗ってもらっている。困難事例の相談や介護保険外のサービスについての情報共有を行っている。	運営会議には市職員および地域包括支援センターが参加し、事業所の状況を共有することで相互理解を深めている。市役所からは介護保険に関する相談や行政手続きについて丁寧な説明を受けているほか、インターネットによる市からの通知や災害情報については市提供の情報端末を活用している。こうした取り組みを通じ、顔の見える関係を築き、支援の質向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	新職員には入社時のオリエンテーションにて拘束について説明を行い周知、他職員は3か月毎に身体拘束状況やその対策について研修を開催している。日頃から玄関や扉の施錠はせずにセンサーを活用し安全確保、連携を図りながら利用者の声掛けや見守りで対応している。	管理者とリーダーによる委員会(5人)を、3か月毎に開催している。委員会での協議内容は職員会議等で職員に周知し、また研修も実施して支援の質向上に努めている。身体拘束の事例はなく、スピーチロックなど、気づいた場合には、職員間で注意し合っている。玄関の施錠は夜間のみで、エレベータや階段の使用はセンサーで感知しているが特に制限はしていない。居室での離床確認用のセンサーは、6名の利用者が使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に虐待防止について研修を行い職員同士声を掛け合いを行っている。見逃す事の無いよう声を掛け合っている。先輩スタッフから新人スタッフへの教育を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用しているご利用様は入居されているが、職員に対して制度について学ぶ環境が現在整っていない為、今後の課題となっている。外部オンライン研修など活用し、学ぶ機会を作っていきたい。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時にサービスの内容、重要事項、料金等の説明を行い、ご本人様やご家族様の不安や疑問を理解と解消し納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の生活に関する報告の中で要望等があれば伺う様にしている。実績、活動報告、事故報告等の意見を聞き取りしている。	家族とは面会時や電話で連絡を取り合い、意見や希望を随時伺っている。面会は感染症発生時を除き可能としており、家族の要望を受けて衣類を新調するなど柔軟に対応している。また、利用者の状態変化に応じて紙パンツ使用等の提案を行い、理解を得ながら支援につなげている。利用者の状況は、日常の会話や表情、行動の変化から丁寧に把握している。	利用者個々の生活状況を簡単に記載した「お知らせ」を作成し、スナップ写真とともに定期的に家族に届け、家族の安心感の向上と要望等の把握に資することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面談等をこまめに実施出来ることが望ましいが時間がとれない時などは日々の雑談の中で気軽に意見を求める等行っている。職員と共に業務つき現状把握やご利用者様のケアに関する意見をこまめに行っている。	毎月開催の職員会議や朝礼の機会や、申し送りノート、タブレット等を通じ、職員の提案等を把握している。勤務時間や夜勤の調整、人材の確保(パート体制)、イベント内容の変更など、職員の提案を業務に具体的に反映させている。古くなった物の交換や、居室へのエアコンの設置など、設備の拡充にも活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	新人職員には機能評価を実施し得意、苦手な事を明らかにし必要であれば教育を行っている。意欲、能力のある職員に対し手は具体的な目標を共に上げ遣り甲斐を感じられるよう努めている。職場に対する意見や提案を聞き入れる場として職員にアンケートや面談を持つ事もある。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員はローテーションで毎月関心のあるテーマに関して勉強会を開催している。外部オンライン研修を活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同法人の他事業所職員と意見交換等が出来るよう、季節の行事などには職員が交代で参加できるように取り組めるようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人様、ご家族様等関係機関からご本人の健康状態や困っている事、興味を持たれている物等を把握する為コミュニケーションを大切にしている。また同時に安心していただけるよう関係作りを指導してる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入前の相談の段階で困っている事や要望を伺い、ニーズを計画書に意向を反映している。特に最初の段階では丁寧に連絡を取り合うよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容が他の居宅介護サービス利用によっても解決可能と考えられる問題であれば当法人内のケアマネジャーにも同席や相談を求め必要と思われる支援を検討、対応している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員はご利用者様と一緒に調理や洗濯物たたみ等家事仕事を共に行っている。月一度の手作りランチ会等で郷土料理や知恵を教えていただきお互いに支え合う関係が築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	体調が不安定な時などは連絡を行っている。日頃からご家族様とこまめに連絡を取り施設内での様子を写真を配り報告し暮らし方や本人の状態について理解していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの美容室や地域行事など生活の中で大切にしてきた事を継続出来るように支援してる。ドライブや短時間でのおやつや外食等工夫を行い支援に努めている。	面会は、感染症流行時を除き制限なく行われており、家族と昼食に外出する利用者もいる。ドライブでは四季の景色を楽しんだり、馴染みのある場所を巡っている。電話や携帯、手紙でのやり取りも行っており、正月には年賀はがきを作成している。普段から知人、友人(地域や職場の仲間)が来所し、正月やお盆時には親戚が来所している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知症がある利用者様が孤立しないようご利用者様とご利用者様の会話が成り立つよう橋渡し等支援を行い関わりを大切にするよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居された方からの相談も受け入れ繋がりが切れないようにしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人・ご家族様よりお話を聞き本人らしく過ごしてもらえよう生活歴から想像したり、馴染みの場所に足を運んでみる等の工夫を行っている。	日々の会話や行動、表情から利用者の思いを丁寧に把握し、日常の支援に反映している。タブレットや各利用者支援ノートを用いて毎日共有し、全職員が情報を把握している。絵画展への出展や書き初め、ランチ会での調理参加など、利用者の趣味や希望を尊重した活動を支援している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントの際、今までの生活の様子をご家族、ご本人から話を丁寧に聞くようにしている。また生活習慣について、地域、家族との人間関係、サービス利用時の様子等を、よく把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝、夕の申し送りでのその日の様子、月例ミーティングで1ヶ月の様子を振り返り把握に努める。日々の職員と利用者との関わりを多く持つように声掛けを行い状態変化があれば気付くように心掛けている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	普段の様子観察を行い変化がある時はモニタリングを活用しながら情報共有し月例ミーティングやカンファレンス等で意見交換を行っている。サービス計画書の修正が必要であれば、ご本人やご家族様に相談し了承を得て改正している。	介護計画は短期3ヵ月・長期6ヵ月ごとに見直し、利用者ごとのカンファレンスは看護師、リーダー、介護支援専門員で行っている。本人・家族の意見を取り入れ、日々の支援で得た気づきをプランへ反映し、より適切な支援につなげている。介護支援専門員がこれらを踏まえて計画を作成し、事業所内で回覧して確認した後、家族へ説明を行っている。医師の指示も計画に反映させている。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別や申し送りノートを活用し情報共有している。レクリエーションやケアの記録も必要時に様子や言動をその都度記録している。ミーティングでそれらを振り返り職員で再確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院対応がご家族様の負担になる事も多いと考え、市内の通院は事業所に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	生活歴をご家族様から聞き取り馴染みの場所や自宅周辺をドライブを行っている。また、地元の祭りを見学に出かける等できるだけ願いを叶えられるよう支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設に入居される前からのかかりつけ医の所に受診を継続している。状況が変わった場合は家族様に説明を行い了承を得たうえで適切な治療を受け入れる様に支援を行っている。通院時は多職種で健康状態を確認している。	利用者の多くは入居前からのかかりつけ医を受診しており、通院は家族の希望で職員が同行している。希望に応じて訪問歯科の利用も行われている。日常の体調変化については、看護資格を有する介護士が相談対応を行い、早期把握に努めている。受診時には近況をまとめ、受診結果は本人および家族と共有している。これにより安心して医療を継続できる体制が整い、継続的な健康管理につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様の変化を看護師と共有しかかりつけ医からの指示で必要に応じ看護師がご利用者様に適切なケアを行いながら介護職への指導を行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	計画作成担当者や管理者が病院と連絡を取り、情報収集を行い介護員に周知。退院後に安心して元の生活を送れるよう支援内容の検討等を協議して対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や看取りについて意向確認を行っている。終末期が近づいて来た時はかかりつけ医と施設で連携を取り出来るだけご本人様やご家族様の意向を尊重出来るよう支援を行うように取り組んでいる。看取りへの課題、態勢上問題を解決や研修ができるように努めている。	入居時に重度化や終末期の方針について事業所から説明を行ったうえで、本人・家族から意向を確認し了承を得ている。重度化した場合には住み替えの提案などを行いながら、医療機関と連携し、安心して過ごせるよう支援し、本人・家族の思いに寄り添った対応を心がけ、尊厳ある暮らしの継続に努めている。看取りを行っていないが、看取り経験のある職員が在籍している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	月例ミーティングでご利用者様の状態を確認し予測される事等を話し合っている。また、定期的に研修を行い急変時の対応が出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年に2回開催し地震からの火災なども予測し避難誘導を実施。消防署立ち合いを行い指導や意見をいただいている。コロナ禍の為、地域の方の参加を控えている。	事業所はハザードマップ上の対象区域の外に位置している。消防署立ち会いのもと、地震や火災を想定した避難訓練を実施しており、災害時の対応力向上に努めている。署員の評価は、スピーディーであったとのことで、2階からの移動、車イス対応の助言があった。非常時に備え、冷凍食を2日分備蓄し、発電機やカセットコンロも常備している。指定避難所は近隣の文化会館となっており、平時から確認を行っている。これらの取り組みにより、災害発生時にも職員が落ち着いて対応できる体制を整えている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄や日常的なケアなどプライバシー保護に配慮している。ご利用者様の名前ではなく居室名称や医療用語を使い工夫している。また、地元の言葉を使用する等コミュニケーションを図り把握し対応を行っている。	方言を交えながらも丁寧な言葉遣いを心がけ、利用者が心穏やかに過ごせる対応に努めている。支援記録はパスワード管理を徹底したタブレットで確認できる。個人情報事務所内で適切に保管し、広報「写真広場」への掲載は事前に同意の可否を確認している。居室入室時には必ずノックと声掛けを行っている。トイレや入浴時には羞恥心に配慮し、入浴は原則1対1で介助し、希望があれば同性介助にも対応している。失禁時にも心情に寄り添った対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の表情や仕草、意思を組み取り会話など日頃から出来るよう努めている。自己決定できるよう利用者様のペースで出来るよう対応を心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人ひとりの生活リズムを尊重し可能な限り対応を心掛けている。入浴、食事、レクリエーション等無理強いせず対応を行っている。拒否などが見られた場合は理由や改善案等をその都度情報共有している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日の天候や気温に配慮しながら利用者様と服を選んでいる。美容室等行きつけがあれば可能な限り継続して利用していただいている。			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月に一度手作りの昼食をご利用者様と一緒にメニューを相談し楽しみながら行っている。配食サービスを利用しておりご利用者様が目でも楽しんでいただけるよう旬の野菜や果物を追加している。	米飯とみそ汁は事業所で手作りし、その他のおかずは外部業者に委託し、栄養管理のもとで提供している。季節に応じた献立を取り入れ、利用者と一緒に盛り付けを行っている。行事食は事業所で準備し、毎月のランチ会では職員が食材を購入し、利用者とともに調理を楽しんでいる。おやつはプリンやがんづき、煮リンゴなど手作りのものを提供している。テーブル拭きや下膳は、希望する利用者が担うなど、役割を担うことを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事や水分摂取量を記録している。また利用者様に合った食事量や食形態に配慮し誤嚥などの防止等の見守りや介助、声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアについて社内で勉強会を行い口腔ケアの重要性等を学び実践している。ご利用者様の負担にならないよう工夫し口腔内の状態を良好に保つよう努めている。また利用者様に合った口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	食事の前後などにトイレ誘導や声かけを行っている。また定期的に清拭やパッドやリハパンを確認・適宜交換を行い清潔保持に努めている。	排泄状況やパターンは記録で把握し、自ら定期的にトイレに行かない方は声かけを行い、必要に応じて排泄の介助を行っている。半数の方が紙パンツやパッドを使用している。必要に応じて離床センサーやポータブルトイレを設置するなど、安全面に十分留意した環境を整えている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事は配食サービスを使用しているので味噌汁や付け合わせ、果物等食も繊維を多く摂れるように献立に組み込んでいる。また、水分不足にならないよう水分摂取を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	定期的に入浴を勧める他、利用者様の希望に沿う形で足浴や全身清拭などの対応を行っている。	毎日入浴できる環境を整えており、一般浴槽には各所に手すりを設置している。リフト浴やシャワーチェアも備え、転倒防止など安全面に配慮している。多くの利用者は週2回程度入浴しており、入浴は個浴でマンツーマン対応としている。職員との会話を楽しみながら、気分転換やリラクセスにつながる時間となっている。しょうぶ湯や柚子湯を提供し、希望に応じて同性介助にも対応し、安心して入浴できる環境づくりに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中体操やレクリエーション、創作、家事手伝いなどに取り組んでいただけるよう声掛けや参加を促し、日中の活動量を増やす事で夜間の睡眠に繋げる工夫を行っている。眠れないご利用者様の対応として傾聴や見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	通院や服薬等の情報をまとめたファイル等を確認し情報共有を行っている。服薬の手順を確認し誤薬や服薬忘れ等に注意しながら服薬介助を行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者一人ひとりの得意、不得意を確認しスタッフ間で情報共有する事で家事手伝い、創作の作業をお願いし支援や声掛け、見守りを行い作業に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブで田んぼアートや足湯、祭りの見学など季節を感じながら気分転換や楽しみに繋がり、地域の方やご利用者様同士のコミュニケーションをの場にもなっている。	家族とともに買い物や外出に出かけるほか、日常的な外気浴や散歩支援、花見や紅葉など季節に応じた外出を行っている。自立歩行の方、車いす利用の方を区別せず、全員が楽しめるよう配慮している。花巻まつりでは山車を観て、ドライブで田んぼアートも見学した。春には庭での茶話会や地区文化祭への外出など、地域にあって季節を感じられる機会を大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段は事務所で小遣いをお預かりしたり、立替金として管理を行なっている。利用者様の要望をお聞きし、ご家族様と相談しながら、おやつや生活用品などを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族様と電話や状況に合わせた面会を行っている。また年賀状や暑中見舞い等作成しご家族様とやり取りを行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ぼっかぼか花巻中央 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールの温度調整や明るさ等利用者様に合わせ快適に過ごせるよう椅子などを配慮している。また季節を感じられるような創作物や利用者様の作品等を飾るなど行っている。	暖房は、床暖、エアコンで行い、空調は換気扇を活用している。夏場の扇風機、冬場に加湿器を使用している。1階ロビーは食事用テーブルがあり、テレビを視聴している。2階はロビーのほか、畳の小上がりがある。テレビのほかカラオケもある。壁には季節ごとの飾りのほか、塗り絵、切り絵などの作品が貼付されている。ロビーは明るく、利用者は思いの場所で、くつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	小上がりの和室やフロア以外の場所にも椅子を置きいつでも過ごせるようにしている。ベランダから見る外の景色の眺めがよく、近くに椅子を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様の使い慣れた家具などを持参し居心地よく過ごしていただけるよう配置の工夫を行っている。自室にはご家族様との写真等を飾っている。	暖房は、パネルヒーターのほか、エアコンが設置されている。ベッド、ナースコール、テレビ端末が設置され、イス、テーブル、ラック、衣装ケース、テレビ、家族写真等が持ち込まれ、壁には、作品が貼付されている。ベッド等の配置は、利用者の意向に沿っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	玄関や浴室などにスロープ、手すりを設置しベッドには介助バーを取付け安全の確保や促進に努めている。施設内にはエレベーターと階段があり利用者様の能力に応じて使用している。		